

## 会告 IV

### 第 22 回 (2018 年度) 認定輸血検査技師試験の結果

平成 30 年 9 月 11 日

認定輸血検査技師制度

協議会 会長 岡崎 仁

審議会 会長 加藤 栄史

試験委員長 加藤 栄史

昨年度から試験制度が大幅に変更され、一次試験が筆記試験となり、二次試験が実技試験となった。また、二次試験受験資格者は一次試験合格者とした。さらに、実技試験の採点方式も、減点法から加点法に変更したが、以前からの実技試験で大減点とされていた問題を必須問題として、必須問題を全問正解することを合格の条件とした。本年度は、試験制度が変更され 2 年目であり、受験者には周知されていると考える。

#### 【1】一次試験（筆記試験）

##### 1. 受験申請者数：286 名

実受験者数：276 名（辞退者 8 名，欠席者 2 名）

##### 2. 試験結果

1) 平均点：67.2 点（最高点 91.5 点，最低点 31.4 点）

2) 合格者数：127 名（合格率 46.0%，127 名/276 名）

・一次・二次両試験受験者：123 名（合格率 45.7%，123 名/269 名）

・一次試験のみ受験者：4 名（合格率 57.1%，4 名/7 名）

##### 3. 試験内容と講評

認定輸血検査技師制度第 22 回一次試験（筆記試験）は 6 月 23 日（土）、ベルサール神保町（東京）を会場に行われた。試験時間は 2 時間で、マークシート問題と記述問題とし、内容は輸血医学の基礎、輸血検査（基礎、血液型検査、不規則抗体検査など）、輸血に関連する臨床、計算問題などとし、症例問題として血液型判定、可能性の高い抗体については必須問題とした。難易度は昨年的一次試験とほぼ同じで、平均点は 67.2 点と昨年の平均点（63.3 点）と同程度であった。ただし、血液型判定や可能性の高い抗体同定など、輸血検査で誤りが許されない問題（必須問題）に対して 37 名（13.4%）が不正解であった。特に、合格得点であったが必須問題が不正解であった受験者が 13 名であり、輸血関連検査の結果が患者へ及ぼす影響を再度、認識して学習することを望む。

#### 【2】二次試験（実技試験）

##### 1. 受験者数

・申請者 168 名で、欠席者 0 名で、実受験者数は 168 名であった。

・実受験者 168 名の内、一次試験合格者が 127 名、二次試験のみ（再受験者）が 45 名であった。

##### 2. 試験結果

###### 1) 成績

・平均点：82.8 点（85.1 点），最高点：97.7 点（93.3 点），最低点：59 点（67.7 点）

（ ）は 2017 年の成績

・血液型検査（平均点：86.8 点，最高点：99 点，最低点：36 点）

・抗体検査（平均点：77.8 点，最高点：100 点，最低点：16 点）

・カラム検査（平均点：83.7 点，最高点：100 点，最低点：50 点）

###### 2) 合格者数

・合格者数：72 名（合格率 42.9%，72 名/168 名）

・一次・二次両試験受験者：49名（合格率38.6%，49名/127名）

・二次試験のみ受験者：23名（合格率51.1%，23名/45名）

### 3. 試験概要と成績

#### 1) 概要

認定輸血検査技師制度第22回二次試験（実技試験）は8月4日（土）、東海大学（伊勢原校舎）を会場で行われた。申請者168名で、欠席者がいないため、実受験者数は168名であった。これは昨年の二次試験とほぼ同数であり、新規受験者が90名、再受験者が33名、二次試験のみの受験者が45名であり、昨年より新規受験者が約20名の増加であった。

試験問題は血液型検査、抗体検査（交差適合試験を含む）、カラム検査の3科目であり、試験時間も従来と変更がなかった。血液型検査は実技問題が3題と机上問題が1題の計4題であった。抗体検査は実技問題が2題、机上問題が1題の計3題であり、通常業務で試験時間内に全ての問題を回答することが可能であり、全ての受験者が時間内に課題を終了していた。カラム検査は実技問題が2題、机上問題が3題の計5題であった。各科目には必須問題が出題されていた。

#### 2) 実技試験の講評

全科目の平均点は82.8点と高得点であり、血液型検査、抗体検査、カラム検査の平均点は各々86.8点、77.8点、83.7点と各科目間で大きな差は認められなかった。また、昨年の平均点85.1点と比較しても大差がなく、難易度は昨年度とほぼ同程度と考えられた。昨年来の平均点が高得点であり理由として、減点法から加点法に採点方式が変更された事によると考えられた。ただ、平均点が高得点でありながら、二次試験の合格率が42.9%であり、減点法による採点であった一昨年度の33.2%よりは高率であったが、加点法に変更した昨年度の61.6%に比して低率であった。この変化の要因として、1)採点方式が昨年度から減点法から加点法に変更されたこと、2)一次試験による選別で受験者の習得レベルが高いこと、3)必須問題の項目が昨年度より増えたことなどが考えられる。特に、必須問題の不正解が86名（51.2%）の受験者に認められ、受験者はもう一度、基本的な手技、手順などを復習する必要があると考えられた。

血液型検査に対する試験では、平均点が86.8点と高得点であった。多くの受験者は判定解釈や対応など必要な知識を習得していると考えられた。ただし、血液型判定（再検査を含む全ての検査判定）などの必須問題での不正解者が54名（32.1%）も認められた。血液型判定検査は輸血関連検査の中で、最も重要かつ基本であり、もう一度、検査手順方法も含めて復習して頂きたい。特に、血液型検査の判定保留に対する対応等について考えて頂く必要がある。

抗体検査に対する試験では、平均点が77.8点と血液型検査よりは10点ほど低いが、高得点であった。多くの受験者は判定解釈や対応など必要な知識を習得していると考えられた。ただし、可能性の高い抗体判定などの必須問題での不正解者が39名（23.2%）も認められた。特に、臨床的意義のある抗体と可能性の高い抗体とが混同されていると思われる。

カラム検査に対する試験では、血液型検査および抗体検査と同様、平均点が83.7点と高得点であり、受験者が勉強されていると考えられた。ただし、残念ながら、必須問題の不正解者が28名（16.7%）と前2科目よりは少ないが約2割弱の受験者に認められた。

#### 3) 試験結果の通知表記

今回、血液型・抗体・カラムの全てにおいて及第点を取得し、必須問題が正解した受験者が合格となる。評価ランクに関しては、必須問題が正解の受験者に対して、一定の基準にてA～Fに分け、絶対的評価とし、必須問題不正解の受験者に対して、及第点の有無でGとHに分けた。各科目および総合で基準点以上かつ必須問題正解をA～Cとし、合格者とした。必須問題正解で基準点未満をD～Fに分け、さらに、必須問題は不正解で基準点以上をG、基準点未満をHとし、これらの受験者は不合格とした。

#### 4. まとめ

今回、二次試験（実技試験）は昨年に比べ、合格率が低くなった。この要因として、必須問題の不正解が挙げられる。ただし、必須問題は輸血関連検査の根底かつ重要な検査であり、この問題は認定技師として習得すべき事項と考える。また、基準点を獲得しながら必須問題の不正解で不合格となった事例は、以前の減点方式では大減点として、得点が低く不合格になった事例と同じと考える。

**【3】 第22回認定輸血検査技師試験の総合結果**

## 1. 受験者数

- ・申請者数は331名で辞退者が8名、欠席者が2名で、実受験者数は321名であった。
- ・実受験者321名の内、新規受験者は162名(50.5%)、再受験者が159名(49.5%)で、一次試験のみの受験者は7名、二次試験のみの受験者は45名であった。

## 2. 総合判定結果(一次・二次試験の総合判定結果)

- ・今回の試験を受験された受験者321名中、合格者数は76名(合格率:23.7%)であった。
- ・一次・二次両試験を受験された受験者276名中、合格者数は49名(合格率:17.8%)
- ・一次試験のみを受験された受験者7名中、合格者数は4名(合格率:57.1%)
- ・二次試験のみを受験された受験者45名中、合格者数は23名(合格率:51.1%)

## 3. 試験成績について

全体の合格率は23.7%(76名/321名)で、昨年の32.5%に比して低い合格率であった。また、単一受験者の合格率(一次試験のみ:57.1%、二次試験のみ:51.1%)に比べ、両試験の受験者の合格率が17.8%と不良であった。昨年の両試験受験者の合格率25.4%に比べても低率であった。今回の試験で合格率が低率であった要因として、実技試験での必須問題の不正解によると考えられる。認定輸血検査技師を取得した技師は輸血検査におけるスペシャリストであり、輸血検査結果が患者生命予後に影響することを念頭に検査管理・業務・教育を遂行されている。その意味で、本試験は検査技師が資質に到達しているかを見極める試験と考える。今回、残念ながら合格に至らなかった受験者は、更なる研鑽を積み、来年以降に合格される事を希望する。